



5 万分の 1 地質図幅の新刊

大阪西南部

ŌSAKA-SEINAMBU

5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告



著 者 藤田和夫・前田保夫
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,390円

かつて 大陸より瀬戸内海を渡ってこの地を訪れた人々は 堺の港の背後に巨大な墳丘の葺石を輝かせて横たわる大山石墳 (仁徳陵) を眺めて感嘆の声をあげたであろう。七世紀になると 新たに難波津の港が築かれ かつわらに 高くそびえる五重塔を中心に四天王寺の巨大伽藍が建立された。更に 十六世紀後半になると この地のシンボルは大阪城の天守閣へと変わった。大阪湾に面した本図幅地域は 古代より 海外に向けた日本の顔とも言える役割りを果たしてきた。そして 今は世界有数の巨大都市「大阪」が形成され 周辺の丘陵のみならず大阪湾に向かっても拡大しつつある。

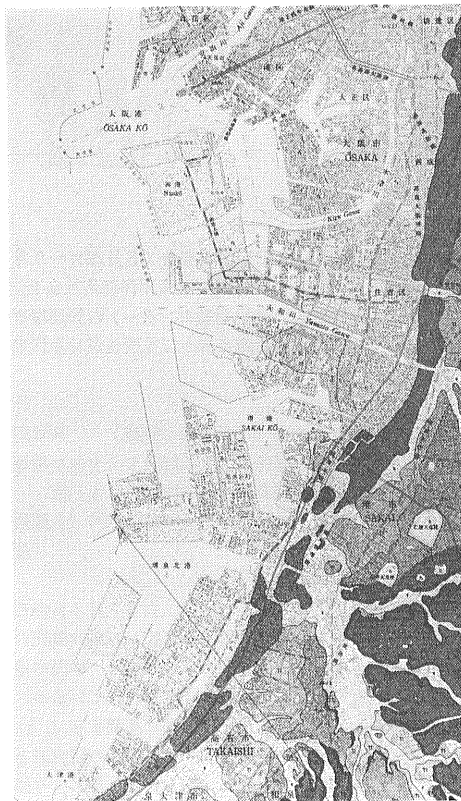
本図幅地域の地表面は既に人工的に改変されつくしているが 地下には 1,000 m 以上に達する新生代層が潜在している。この大部分を占める大阪層群が昭和38年度に実施された OD-1 ボーリングの成果を中心に詳細に記述されている。著者らは13枚の海成粘土と30枚以上に達する火山灰層を含む大阪層群について上部亜層群・中部亜層群・下部亜層群に区分し その概要について述べている。

また 大阪平野全域に及んでいた海が徐々に消滅して行く過程と関連して 大阪層群上部亜層群と段丘の関係が最近重要視されるようになった。この問題についても 現時点での成果が簡潔にまとめられている。

沖積層に関する記述も詳しく行われている。特に前田保夫氏は「港大橋」の橋脚建設用の潜函内において露頭の連続観察を行い多数の資料を得た。更に 昭和37年の大阪湾音波探査委員会による音波探査の成果や 昭和5年以降の多数のボーリング資料などを総合して 大阪の沖積層の形成過程が詳しく考察されている。

大阪の市街地域には南北に延びる上町台地がある。これは 古くから「大阪山脈」と呼ばれ 「基盤褶曲」の概念と結びつけられ 重要視されてきた。これについて OD-1 -2 ボーリングや地下鉄掘削の際の資料から 基盤岩中の上町断層の活動に起因することを明らかにし この断層の活動に伴う地形発達について言及している。

本書は 当然のことながら 応用地質の記述が大変充実している。地盤沈下調査や建設工事に際して行われたおびただしいボーリング資料に基づいて 大阪地域の第四紀層の土質工学的特性を中心に 地盤沈下・地下水及び地下構造に起因する地盤問題について詳述されている。



「大阪西北部」・「神戸」・「須磨」と藤田和夫氏による四部作が「大阪西南部」により完結する。これらには大阪平野・六甲山地を中心に 日本列島の形成に言及する“藤田思想”がダイナミックに展開されている。

地質に少しでも関心のある方に 地質学の面白さを思う存分伝えてくれる名著である。四地域通して読まれることを特におすすめる。

〈文：寒川旭〉

地 質 ニ ュ ー ス

第373号 9月号
定価 ¥ 600 千実費

昭和60年9月1日

編 集
発 行人
発 行 所

工 業 技 術 院 地 質 調 査 所
林 久 雄
株 式 会 社 実 業 公 報 社
東 京 都 千 代 田 区 九 段 南 4 の 2 の 12
〒 102

TeL. (03)265-0951(代表)
振替口座 東京1-32466

総発売元

株 式 会 社 実 業 公 報 社
出 版 事 業 部